

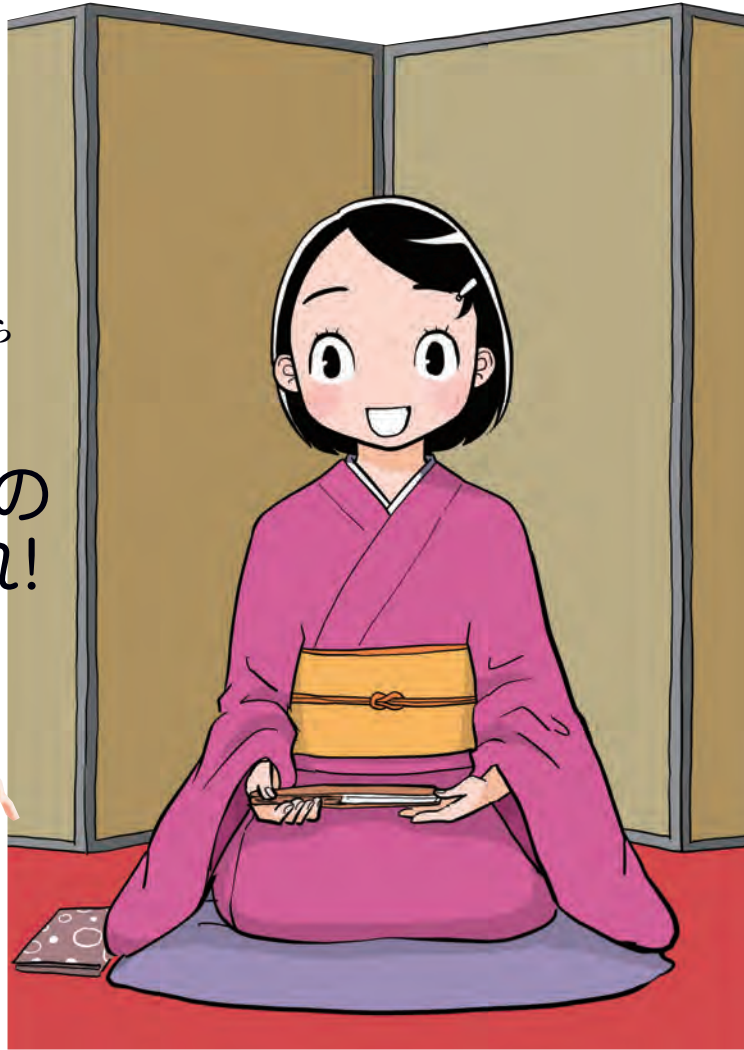
中学道徳通信



特集

学級づくり

生徒が自分自身と他人を認める
よじになるためにやるべきこと



巻頭インタビュー

多様な個性を生かし、
才能を引き出し伸ばしながら
一つの音にしていく

教師は オーケストラの 指揮者であれ!



落語家 作家
立川談慶

1学期

生徒たちの声に耳を傾ける

2学期

生徒たちの自己肯定感を高める

3学期

生徒たちの成長を確かめ
教師自身の自己ベスト更新を図る

私立中高一貫校教師 金杉朋子

テキスト マイニングの 賢い利用法

前京都芸術大学文学部表現学科講師
小倉千秋

子供たちの潜在能力を引き出し 育む学級のつくり方

作家で教育書の著作もある
立川談慶師匠。
落語と道徳との親和性の中から、
多様性や考え議論して
探究する力を育み、
子供たちの潜在能力を引き出す
学級づくりのヒントを語ります。

文 編集部 写真 平野晋子

巻頭インタビュー

落語に学ぶ

自称授業名人より聴き取り達人に！

落語家(立川流真打) 作家

立川談慶

「一对多数で人と接するということは、噺家と教師も共通点は少なくありません」

こう語るのは立川流真打の落語家、立川談慶さん。天才落語家、故立川談志師匠の18番目の弟子として入門、2000年に二つ目、05年には落語界初の慶應義塾大学経済学部卒の真打昇進を果たします。まさに順調な落語家人生を歩んでいるように見えますが、実は9年半も前座修業をした苦勞人です。

この長い修行生活の中で、天才落語家から「一对多数」のコミュニケーション術はもちろんのこと、道徳教育にも通じる多くのことを悟りました。立川談志の名言、思想を綴った書籍をはじめ、雑誌、WEB記事の連載に加え、『落語流 教えない授業のつくり方』（誠文堂新光社刊）など教育関係の著書もある作家でもあります。

古典落語では 大家さんは教師？

落語には、導入としての「枕」があり、落語の本題に入ります。授業のどっかからとして、親子、友情、時事ネタなどを入れるという落語の流れを身につけていくと、効果的に授業に生かすことができるかと談慶さんは言います。

「例えば、抜き打ち検査やテストとい

うのであれば、北京オリンピックでの高梨沙羅選手のこととか、共通の言語を探し出す能力を磨くにも、間の取り方などの活用なども、落語は役に立つはず。生徒がどんな発言をしても皆が許し合える環境をつくるのが前提で、場の空気とは異なるものであっても耳を傾ける。もちろん、これは生徒に媚を売ることとは違います」

落語と教室の共通点は演目の中にも数多く見ることが出来ます。落語の世界では、大家と店子、ご隠居さんに熊さん、八つあんななど、実に多くの個性的な人物が登場します。多様性にあふれていて、大家さんは住人たちの行動を寛容に見守る教師のようでもありますし、住人たちはお互いを認め合いながら、つつましくもしたたかに暮らしています。

人間のダメな面を 肯定するのが落語

『長屋の花見』では、店子たちは大家さんに呼び出されて、ためにためた店賃を払えと言われるのではないかとびくびくしています。しかし、大家さんは、貧乏神払いで花見をしようと皆を誘います。「ごちそう」と大家さんは言いますが、その実は、番茶を水で薄めた「おちゃけ」に、卵焼きの代わりのたくあん、かまぼこは大根の薄切りという、どこ



か明るい感じのエアお酒や代替の肴で、陽気な宴が始まります。

「貧しさを逆手にとって、朗らかに生きる人々の姿を描かれています。学校教育では、努力すれば問題は解決すると教えますが、落語では努力したってできないものはできない。人間のダメなところを肯定することで人々に安らぎを与えているのです」

また『水屋の富』では、江戸の街で天秤棒を担いで生活用水や飲み水売って歩く「水屋」が、富くじで大金が当たり大喜びします。しかし、お金を手にしてみると盗まれやしないかと心配でなりません。そこで床下に隠すのですが、人を見れば泥棒に思えるし、仕事も手につきません。長屋に戻ってくると、畳を上げて竿を差し込み隠したお金を確認する毎日で、そのうち強盗に襲われ命を狙われる悪夢を見る始末。そんななか、隣人に大金を盗まれ逃げられてしまいます。いつものように、帰って確認してみると……。

教師はオーケストラの
指揮者であれ！



「お金は影も形もない。水屋はがっかりするどころか『あつ、盗られちゃった。これで苦労がなくなった』。お金さえあれば幸福になれる。一獲得千金や、少ない投資で大きな利益を出すことを良しとする価値観から完全に逸脱しています。一方、必要以上の大金を手にする」と

とで不安になり、かえって不幸になるという見方もできます。子供たちに、世の中には多様な考え方がありということを感じさせ理解させるには、古典落語は格好の生の道徳教材になるのではないのでしょうか」

生徒に正解は一つではないと気づかせる

談慶さんは、オーケストラでタクトを振ったことがあります。しかし、とんでもない不協和音が響き渡ったそうです。つぎ、演奏者が悪ふざけしているのではないかと思ったと言います。

「あのタクトの振り方ではそんな音しか出せませんよ」と後になつて音楽通に言われました」

プロの演奏者は指揮者に合わせるうえで、談慶さんは不協和音の原因が自分にあることを痛感したと言います。

「クラスが一つにならないという声を聞くことがあります。バラバラなのは、生徒の素晴らしい潜在能力を生かしていない

教師の問題なのかもしれません」

一方で、授業のうまさに定評のある教師は数多くいらっしやいますし、クラスをまとめることに長けた教師もいます。しかし、談慶さんは自戒を込めて、うぬぼれて「名人」と錯覚してはならないと訴えます。

「談志は『独演会名人』になるなど戒めていました。それは、多くの噺家さんが腕を競い合う寄席ではなく、おなじみさん、身内のファンが集まる独演会は、笑いに来てくれていますが、腕』以上に盛り上がってくれるものなのです」

担任のクラスでは、子どもたちの反応がよいから授業が好転する。それは、半年、1年という時間によつて生徒との信頼が構築され、限られた人間関係の中でなら、授業が、そして学級づくりがうまくいくということもあるでしょう。それは教師の努力の成果なのですが、試されるのは初めての場面です。

「いまでも強烈に覚えているのは、私



立川談慶

慶應義塾大学経済学部卒業後、会社員を経て、1991年立川談志に入門。2000年二つ目、05年に真打昇進。本業の落語のほか、教育関係の著書を含め現在23冊を上梓、落語+講演で学校訪問も行なっている。

の故郷である長野での落語会のゲストとして師匠に来てもらったときのことです。冒頭、お客さんを見渡して『いい建物だ。箱にお金をかけているところは、得てして文化程度が低い』と切り出しました。毒舌で知られる師匠ならではの一声。会場は一気に談志の世界に引き込まれました。それが談志のキレ味であり、真骨頂なのです」

アウエーを一瞬にしてホームにしてしまう。これがプロでありカリスマのなせる業。しかし、誰でもカリスマになれる訳がないじゃないかと思われるかもしれません。しかし、そんなことはないと言慶さんは力説します。

「談志は『努力はバカの夢』と語っています。しかし、天才の名をほしいままにした師匠は努力の人でした。日々の努力

の積み重ねで、人の心をつかみ、落語界のカリスマになりました。先生方も、自称ではなく、他も認めるプロの授業名人を目指してもらいたいです。

「談志は年中小言ばかり言っていました。だが、正解はこうだと言いませんでした。ただ、こういう方向性で落語をするのだということ背中を覚えてくれました」

その結果、志の輔さん、志らくさん、談春さんなど、落語界を牽引する落語家を育てた談志師匠は「最高の教育者」だと談慶さんは断言します。

現在、落語界は東西で1000人ほどのプロがいます。これは史上最大規模で、「まさに先達の指導の賜物なんです。いい指導者がいい落語家を育てる。これは教師も同じです。校内だけでなく社会に向けて、私はこういう教育をしたいということ発信して、生徒に背中を見せてほしい。生徒はそれを見て進むものなので、これが正しいことだと、強制的に覚えさせるのではない。世間ではこう言っているけれど、正解は一つではないんだということを感じ取らせてください」

一つの正解を覚えさせ、どれだけ記憶できているかを問う試験があつて、大学の序列が存在する。就職もそれで左右される。でも、これでは社会が立ち行かなくなっていることは、誰もが感じていることだからです。

特集

生徒の発達成長が実感できる

学級づくり

肉体同様、心の発達期にある中学生は自己肯定感に乏しい。この時期に仲間や教師に認めてもらうことで、苦しいが消えていく。それぞれの多様な個性を尊重しあえる学級づくりのツボは、
「なんだか楽しい」にあった。

文 大西洋平 人物写真 平野晋子 学校写真 PIXTA

授業開きから最後の授業までに、生徒が自分自身と他人を認められるようになるためにやるべきこととは



金杉朋子 かなすぎともこ

私立中高一貫校の教諭を25年務め、慶應義塾大学総合政策学部で講師、武蔵野大学アントレナースhip学部学科長を兼任する。2007年に第56回読売教育賞（社会科教育）受賞。

学級づくり

まずは生徒たちの声に
真摯に耳を傾ける

「3学期末を迎える度に、私の教師人生で今年最高のクラスだったと実感しています。毎年、こうした思いを味わいたいから、1年間を費やす長丁場ととらえてクラス運営に臨んでいます」

こう語るのは私立中高一貫校の教諭で、慶應義塾大学、武蔵野大学で講師も務める金杉朋子先生です。そして、長期のスパンで取り組むうえでも、最初が肝心だと指摘します。

「つねに願っているのは、私のクラスに所属する生徒たちにとって、本当に有意義な1年間にすること。でも、私だけが張り切りすぎて空回りしてしまうと、一方的な押しつけとなって、生徒たちが自分自身で何の気づきも得られない時間ともなりかねません。そこで、授業開きから1学期の前半は生徒たちの声に耳を傾け、彼らからじつくりヒアリングすることに力を注ぎます」

大人の心へ成長途上の
時期は卑屈になりがち

新たに割り当てられたクラスの中で、各々の生徒たちは大なり小なりの不安を抱え、互いに警戒して様子を見合っています。そのような場面で教師まで

1学期

生徒たちの声に耳を傾け カチカチの土をふかふかにする

緊張してしまったり、生徒たちに対して無闇にプレッシャーをかけてしまったりすると、クラスの中がギクシャクした状態になりかねません。

「生徒たちの声に耳を澄ます際に気をつけているのは、彼らに対して妙な先入観を抱かずに接することです。それまでに受け持ったことのある教師などから事前情報は入ってきますが、いったん無の状態にして、新たに私自身でイチから畑の土を耕していくように心掛けています。クラス運営のスタート地点では、こうした土づくりが非常に大切だと考えているのです」

生徒たちは担任の教師やクラスの仲間

間に警戒感を抱き、概して強ばった表情になっていくことでしょ。耕作地の土壌にたとえれば荒地の状態で、ヒアリングを通じてふかふかに耕していくのが最初のアプローチです。

「まさに1学期は土ならしのプロセスで、派手さのない地道な働きかけになります。しかも、担任の教師にとつてはかなり疲れる取り組みですが、成果が2学期以降に実ります。また、私はグループワークを通じて、生徒同士の距離感を縮めることも意識しています」

地ならしを進めるうえでは、青年期を迎えた生徒たちの中で生じがちな誤解を取り払うことも大切だと金杉先生

は考えます。子どもから大人へと成長していく過程で心の変化に違和感を覚え、自分だけが不安に苛まされてネガティブ（卑屈）になっているのだと思

い込む生徒が少なくないからです。

菌の生え替わりと同じで
あることを気づかせる

「心の中のモヤモヤはけっしてあな

たのせいではないということ、4月の段階で座学を通じて生徒たちにきちんと伝えるようにしています。乳菌から永久菌への生え替わりは、その時期に多少の個人差があるものの、誰もが経験すること。菌と違って目には見えないけれど、同じように心にも成長があつて、心の中の違和感はそのためなのだという話をすると、毎年のように生徒たちの間で大きな反響があります」

ネガティブなのは自分だけかと思っ

ていたけれど、心の発達途上で生じる

「副反応」なら仕方がないことだと、生徒たちは大きな気づきを得るわけですが、逆

自分自身について 考えられる状態に導く

こうしてクラス運営に発達心理学の観点を採り入れているのは、金杉先生が授業において「アイデンティティ形成支援に向けた表現教育プログラム」を長く実施してきたことが関係しています。同プログラムの最終的な目標は、クラスに所属する一人ひとりの生徒が「私という存在」というテーマに基づき、自分自身について表現する発表を行うことです。

その目標に向けて、クラスの中における自分を客観視しながら、他者（クラスの仲間たち）のことを知るとともに、他者に知ってもらおうという体験を、グループワークを通じて繰り返します。そうすることで、クラスの中のそれぞれがかけがえのない存在であることを認め合うのが狙いです。

「自分とは何か、自分はどうか生きるのかについて考えさせる授業なので、私やクラスの仲間のことを信頼できなければ、うわべだけの話に終始して非常に中途半端な時間になってしまいます。クラスに馴染むまで大半の生徒はけん制し合っているのです、最初にその心を解きほぐしてあげる必要があります」
自己嫌悪に陥りやすい青年期の生徒

たちは、「アイツは自分よりもはるかに『リア充』に違いない」などといった思考にとらわれがちです。しかも、意外と閉鎖的で、クラスの中で席が近いからといって、必ずしも親しくなりやすいとは限りません。

「ともすれば、部活仲間や趣味の合う人同士でくつつくだけで、クラス内の交流はなかなか広がりません。殻の中に閉じこもっているのです、それを剥がしながら、自分自身について考えられる状態に導くのが1学期の目標です」

昼休みや放課後も 意図的に教室に残る

自分自身についてきちんと振り返っていくうえで、個々の生徒たちが抱えている悩みを知り、その解消のために手を差し伸べることも必要となります。金杉先生は昼休みや放課後も教室に残り、わざと暇を持て余しているように振る舞うと言います。

「何かあったら遠慮なく声をかけてねと言っておいても、なかなか生徒たちは職員室まで足を運ばないものです。しかし、教室で手持ち無沙汰にしていると、必ず誰かが声をかけてきます。シリアスな話になりそうな場合は、教室には他の生徒もいるので、『ちょっと私の相談に乗ってもらえるかな?』と持

2学期

自己肯定感を高める肥料を 生徒たちにまんべんなく蒔いていく



学級づくり

ちかけ別室で個別に話を聞きます。こちらが相談に乗るといふスタンスを取らないのも大きなポイントです」

教師のほうからオープンハートでアプローチしていくことで、生徒のほうも自分の悩みを打ち明けやすくなるわけです。そして、自らのことを積極的に開示する姿勢を示すことで、「この先生なら、悩みを打ち明けても恥ずかしくないかもしれない」と思ってくれるようになりまます。こうして生徒同士や先生との信頼関係が構築されてくると、明らかに1学期の後半頃からクラスの雰囲気が変わってくるそうです。

生徒たちの承認欲求を強く意識しながら運営

土ならしの1学期を経て2学期の前半に金杉先生が注力するのは、生徒たちの自己認識や自己肯定感を高めるためのアプローチです。

「青年期は、自分のことをちゃんと認めてほしいという承認欲求が最も強くなる時期。裏返せば、それだけ不安感が強くて、自分を卑下しがちになるわけです。その理由は、まだ自分が誰なのかから認められないことです。その自分が社会（自己同一性）は確立されません」

子どもが最初に反抗期（いわゆるイ

ヤイヤ期）を迎えた際、その反発は親などの外に向かいます。これに対し、中学・高校の頃に訪れる反抗期では自分に向かつてしまうので、本人にとつては本当に辛いものなのですと金杉先生は訴えます。

この時期を上手く乗り越えてアイデンティティが確立されれば、他人を無闇に妬んだり、中傷したりすることもなくなるもの。SNSなどを通じて容赦ない誹謗中傷や学校内でのイジメなどにもつながりかねないだけに、2学期のクラス運営では生徒たちの承認欲求を強く意識したいところでしょう。

自分のことを冷静な目で捉え、そんな自分を他者が正当に評価してくれることで、初めて自己肯定感が高まってくる。2学期は、そのための肥料をクラスのすべての生徒たちにまんべんなく蒔いていく時期なのです。

2学期後半からは他者を知るプロセスへ

金杉先生の授業プログラムでは、自分に対する認識が高まってきたことを踏まえ、2学期の後半からは「他者を知る」というアプローチに軸足を移していきます。昨今、世界的にダイバーシティ（多様性）という言葉が取り沙汰されていますが、ミクロなスケールで実

感できるのが学校のクラスだと言えるのではないのでしょうか。

「アイデンティティを確立していくうえで、他者を知ることが大事。それは、多様な生徒たちが集うクラスは素晴らしいと実感することです。最近の生徒はスマートフォンで自分が興味のある情報しか見ていないし、SNSのコミュニケーションでしかコミュニケーションを交わしていないケースが多く、視野が狭くなっています。その意味でも、クラスは多様性に富んだ他者を知るうえで、重要な関わりだと言えます」

2学期後半からスタートする「他者を知る」というプロセスで、その対象となるのもクラスメイトです。自分のことを認識でき自己肯定感が高まれば、いたずらに他者を羨む傾向も薄れてきています。一人ひとりの生徒が自分と等身大であるクラスの仲間を客観的に評価することが重要なのです。

「従来の倫理や道徳の授業では、いわゆる偉人の本を読ませ、その感想を述べ合うというパターンが主流でした。しかし、自分が目の前で直面している問題とかけ離れた内容ですと、なかなか生徒たちの心には響きにくいものです。『心を打たれたので、自分もがんばろう』などと感想文には書くものの、それが本心ではないことが多いのです」



自分がこれまで生きてきた道筋を自分が感じた「幸福感」の高低によって1本の線で表現するライフラインチャート。中学生でもいまの自分を形成する価値観や物事の考え方を理解することができるという



3学期

生徒たちの成長を確かめ収穫へ。 教師自身の自己ベスト更新を図る

「私という存在」について 自由な形式で発表し合う

他者を知るために金杉先生が実施するのは、すべての生徒たちが個別に登壇する発表会です。「私という存在」というテーマに沿って、自分自身について考察したことについて自由な形式で表現してもらいます。

「スピーチはもちろん、歌や映像の発表など、自分のことをアピールできる内容なら、発表形態は自由です。毎年、個性豊かな発表が繰り広げられ、クラスが大いに盛り上がります。偉人よりもはるかに身近な存在である隣の同級生たちの意外な一面を知って、心が揺さぶられるからです」

実は、この発表の場で密かに効力を発揮しているのは、1学期の早い段階に蒔いておいた「種」です。それは、無記名方式で生徒たちに書いてもらった「自分から見た自分と他人から見た自分」についての回答。その際にクラスの仲間から書いてもらったことを「私という存在」について発表する場で引用する生徒が多いそうです。

「まず、無記名だから傷つく

	自分は知っている	自分は気づいていない
他人は知っている	開放の窓 自分の他人も知っている自己	盲点の窓 自分は気づいていないが他人は知っている自己
他人は気づいていない	秘密の窓 自分は知っているが他人は気づいていない自己	三知の窓 誰からもまだ知られていない自己

自分の性質を4つの窓に分類する心理学モデル「ジョハリの窓」は、見方の違いで、短所と長所は表裏一体だという気づきが得られる

ので、悪ふざけは禁止とします。また、他人から見た自分のことを知りたい希望者だけに限定するのですが、その際には私自身も参加します。そして、その人たちを対象として、他の生徒たちから見た彼らの長所と短所を書き込んでもらいます。本人が気づいていない長所について指摘する回答が多いので、ほんのりという気持ちになるのか、いつも生徒たちの反響は非常に大きいですね。これは、心理学の『ジョハリの窓 (Johari Window)』と呼ばれる手法に基づいたものです」



「弱さの共有」が進んだ クラスは特に盛り上がる

「ジョハリの窓」は自己分析に用いる心理学モデルで、自分の性質を4つの窓に分類します。具体的には①開放の窓（自分も他人も知っている自分の性質）②盲点の窓（自分は気づいていないが、他人は知っている性質）③秘密の窓（他人は気づいていないが、自分は知っている性質）④未知の窓（自分も

他人も知らない性質）です。

「この分析によって、自分がどの窓を開けている一方で、どの窓を閉じているのかがわかります。たとえば、自分では大雑把でいい加減なところが短所だと思っているのに、他人からはおおらかな性格だと肯定されていることなどに気づくわけです。その結果、要は見方の違いで、短所と長所は表裏一体だという気づきが得られます」

先述したように青年期は自分自身の

ことをネガティブに捉えがちな半面、他人のことをよく観察するようになります。「私という存在」について発表する場でも、その内容を見て他人のいいところを探そうと呼びかけると、生徒たちの意欲が増すそうです。

「発表後は、フィードバックシートへ記名方式で生徒たちにコメントを書いてももらい、翌週にはその内容を公開します。クラスの全員からメッセージをもらうことなんて、他では得がたい経

験です。この発表を実施し始めてから、クラスのまとまりが格段に向上しましたね。特に、悩んでいるのは自分だけではないという『弱さの共感（共有）』が生まれたクラスは、3学期の盛り上がりが増す傾向がうかがえます」

お互いに認め合う関係が築かれた3学期は、4月に蒔いた種が実る収穫期。冒頭の言葉にもあったように、この時期を迎える度に金杉先生は自己ベスト更新の手応えを感じています。

すぐに役立つデジタル授業のツボ③

単語をカラフルに

分析・表示してくれる

無料ツール「テキストマイニング」

小倉千明

(前京都芸術大学文芸表現学科講師 教育ジャーナリスト)

通信技術を活用したコミュニケーション・セッション「ICT（インフォメーション・テクノロジー）」の中で、授業で使えるお役立ち情報を紹介しているこのコーナー。今回取り上げるのは「テキストマイニング」です。テキストマイニングとは「自然言語処理」と呼ばれる解析手法を用いて、文章から必要な情報を抽出する技術の

こと。文章を単語に分割して、出現頻度や相関関係を分析したものが、わかりやすくビジュアル化できることが大きな特徴です。これだけ聞くと少し難解ですが、使ってみるととても興味深く、生徒たちにも喜ばれるツールです。百聞は一見にしかず。無料ツールも充実しているので、ぜひ一度試してみるのはいかがでしょうか。

スコア	出現頻度	形容詞	スコア	出現頻度
1.40	29	無い	2.22	24
6.72	24	いい	0.05	9
0.49	20	よい	0.13	7
3.75	17	佳い	4.20	6
0.11	13	大きい	0.14	4
0.16	13	若い	0.24	4
0.40	12	早い	0.05	4
1.28	11	高い	0.07	4
0.36	10	深い	0.14	3
0.46	9	悪い	0.03	3
0.26	9	たまらない	0.20	2
0.49	8	ありがたい	0.12	2
0.24	8	小さい	0.06	2
3.32	8	口惜しい	1.40	2
0.08	7	強い	0.02	2
2.49	7	寂しい	0.09	2
1.79	7	つらい	0.05	2
6.35	7	暗い	0.19	2
0.46	7	赤い	0.14	2
0.48	7	優しい	0.05	2
0.11	6	偉い	0.09	1
0.05	6	永い	0.26	1
0.02	5	狭い	0.06	1
0.01	5	蒸し暑い	0.09	1
0.49	5	うれしい	0.03	1
0.35	4	うるさい	0.03	1
0.21	4	暑い	0.01	1
1.94	4	悲しい	0.02	1
0.66	4	激しい	0.03	1
1.66	4	面白い	0.01	1

テキストマイニングツール「User Local」の入力画面。テキスト入力だけでなく、データファイルをアップロードすることもできる。

<https://textmining.userlocal.jp/>



出現数が多い語ほど大きく、また共起の程度が強いほど太い線で描画される。(右)スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさで図示される。色は品詞に対応している。文章の中での出現頻度の高い単語をリスト表示もしてくれる、文書の中でその単語がどれだけ特徴的であるかがわかる

学校行事や授業の 感想を、ビジュアルで

テキストマイニングは、文章の全体像や特徴を視覚的に表示するので、生徒が感覚的に内容を理解させられることが、大きなメリットです。

たとえば、生徒が答えた自由記述欄から、感想文をテキストマイニングするとします。学校行事や授業の感想、印象的な授業、実生活にどう生かしているかなどの質問項目が挙げられるでしょう。

生徒たちの文章をテキストデータに入れ込み、テキストマイニングのサイトにデータをアップロードすると、一瞬でWEBサイト画面に、文章が単語に分けられます。そして多く使われているものから大きく、そうでないものは小さく表示されます。

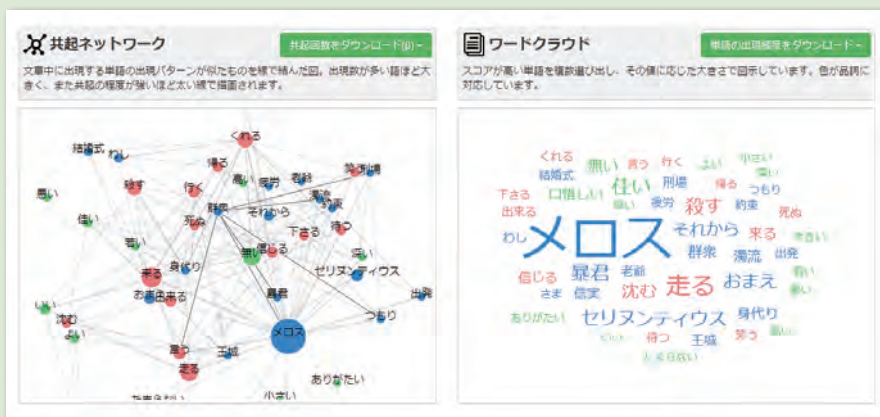
授業の前後で実施して、結果の比較をするのもいいでしょう。宿題と授業終わりの感想文などを比較しても良さそうですね。実際に授業で活用された先生の話にも、授業後に単語数が増えたことがわかりやすく可視化されたという声もあります。また生徒だけでなく教師も分析結果を知ることにより、実感ある授業にすることもできるでしょう。

生徒同士で、今の関心事を 共有し合う

最近知ったニュース、身の回りで関心のあることや時事問題など、生徒に考察させた文章をテキストマイニングすることで、出現頻度の高い単語を図や表にして表示することもできます。

出現頻度の高低順に表示されるリスト表示では、関心の高い単語が明らかにできます。また、文章中に出現する単語の出現パターンが似ている単語同士を線で結んで表示する方法もあります。

次回の授業で掲示することで、自分だけでなく、他の生徒が関心を寄せている内容についても伝えられるので、時事問題やニュースなどへの関心をより広げることが期待できます。なにより、文章や単語が並ぶだけの板書ではない、カラフルな言葉たちが画面で踊る様子が、生徒たちの興味を惹きます。匿名性も保てるので、生徒たちも全体の前でそれぞれの発言を共有しやすいでしょう。膨大な量のテキストから、有益な情報を抽出するテキストマイニング。全体の意見の方向性が一瞬にしてわかり、データも作れるので、教師側としても生徒の文章を一つひとつ集約してまとめるよりも、事務作業がぐっと短縮できるといふメリットもありそうです。



名詞	スコア	出現頻度	動詞
メロス	53.20	76	来る
ゼリヌンティウス	10.50	15	走る
おまえ	10.32	14	くれる
それから	8.23	10	殺す
わし	2.26	8	言う
群衆	4.90	7	行く
さま	0.60	6	出来る
結婚式	1.30	6	信じる
約束	1.63	6	死ぬ
濁流	4.20	6	待つ
暴君	12.00	6	帰る
身代り	4.20	6	笑う
信実	3.50	5	下さる
疲労	1.86	5	沈む
つもり	0.50	5	しまう
出発	1.19	5	疑う
王城	3.50	5	殴る
老爺	2.80	4	おくれる
刑場	2.80	4	居る
きょう	0.27	4	歩く
様子	0.51	4	持つ
牧人	2.80	4	出る
まま	0.08	4	見る
質問	0.21	4	思う
勇者	1.79	4	間に合う
二人	2.80	4	答える
王様	1.29	4	切る
花婿	2.80	4	まえる
山賊	6.34	4	急ぐ
祝宴	2.80	4	逢う

メンバーページへの アクセスを

より便利にしました

日本教科書ホームページからメンバーページにアクセスできるようになりました。

以前は、弊社広報誌のQRコードもしくはWebページアドレスの直接入力という二通りの方法のみでアクセスいただいていたメン

バーページですが、より利便性を向上させるため、ホームページからも直接アクセスできるよう改修しました。これからも先生方の道

徳授業を手助けできるような資料を充実させてまいりますので、ぜひご覧ください。

メンバーページへのアクセス

メンバーページのアクセスは

①日本教科書ホームページ下部の「日本教科書メンバーページ」ボタンを選択。

②「日本教科書メンバーページについて」が表示されます。「メンバーページにアクセス」ボタンを選択します。

③表示された画面のパスワード入力欄に広報誌記載のパスワード「nikkamebe」を入力してください。



メンバーページでは、授業支援資料を随時アップロードしてまいります。このような資料があったら便利という要望、ご意見などがありましたら「日本教科書メンバーページについて」内記載の連絡先または、弊社HP「お問い合わせ」メールフォームからご連絡ください。また、アクセスができない、格納されているデータがダウンロードできないといったことがありましたら同様にご連絡ください

日本教科書の代表著者である白木みどり先生の解説動画は、ホームページ上部のメニューバーからアクセスできる「令和3年度道徳教科書案内」にてご視聴が可能です

白木みどり先生の 教科書解説を公開中です

初めて弊社教科書をお使いになる先生にご覧いただきたいのが代表著者である白木みどり先生による教科書解説動画。弊社の教科書に込めた「人間尊重」の精神を重視した「特別の教科 道徳」の授業をサポートする道徳教材の開発の思いを語っています。また、教科書の使い方、デジタル対応授業などの具体的な実践アドバイスも参考にしてください。



評価文例集からオリジナルを 時短作成できます

ワークシートが ダウンロードできます

道徳での生徒の評価は、ホームページ内に格納している年間指導計画を参考に、各学校の実態に合わせて授業を進め評価の材料を蓄

積していきましよう。

具体的な文例をまとめた「評価文例集」は、弊社のメンバーページ内に格納しています。「書き出し」「顕著な活動のあった教材」「授業

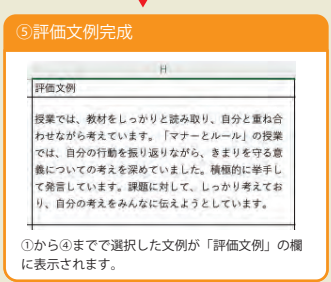
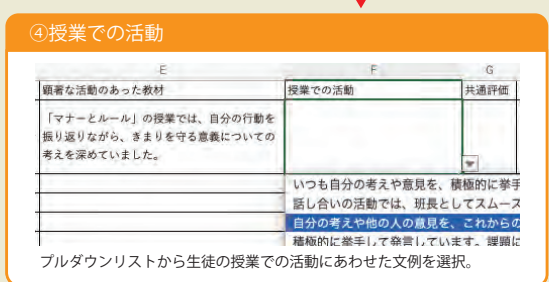
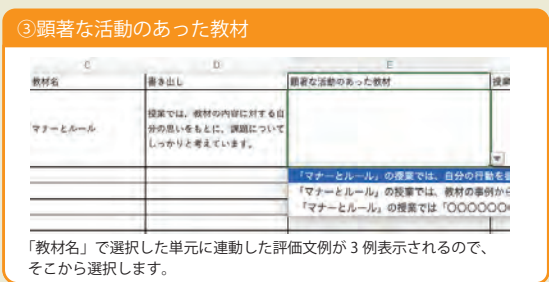
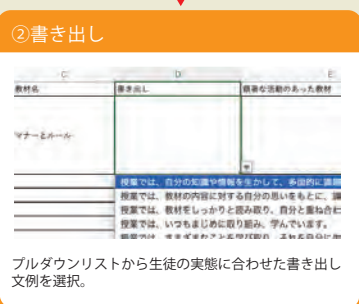
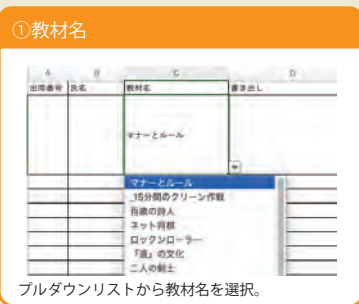
メンバーページに新たな授業用資料を追加しました。弊社道徳中学1年生『生き方から学ぶ』、2年生『生き方を見つめる』、3年生『生き方を創造する』の指導書に同梱しているDVD版にPDF形式で納めている授業用ワークシートの一部をメンバーページに格納しました。

や生徒の実態にあわせて変更したり、野線を追加したり着色することもできますので、先生が自由にアレンジして、オリジナルのワークシート作成ができるようになります。

での活動」など項目ごとに分かれた文例をプルダウンリストで表示させ、組み合わせながら学年ごと、学期ごとに分けて評価文を作成できます。もちろん書き換えも可能です。年間指導計画などと、そのほかの授業補助資料と合わせて、生徒一人ひとりに独自の評価文作成にご利用ください。

使い勝手を考慮し、Word、Googleドキュメントの2通りのデータ形式を選んでダウンロードできます。問いや記入欄は、授業

ワークシートは問いや記入欄の変更、野線の追加以外にも、図や画像を挿入することもできます。地域教材など、独自教材を用いた授業のワークシート作成にもご利用ください



道徳評価文例集のExcelファイルには、より詳細な使い方を記載しました。印刷してマニュアルとしてもご利用いただけます。その他にも、文例集作成にあたっての解説や留意点なども記載しています

2 命をつくるもの 組 氏名:

・「食べる」から連想される言葉を考えましょう。

・「食べるという根拠が抜ける」と、どうして「能での実態を正しく直感できなくなる」のでしょうか。

発問は
生徒や学校の
実態に合わせて
変更可能

友だちの意見

・自分の生活習慣で改善したいことはありますか。

記入欄は野線をつけるなど自由にアレンジ可能

授業の感想

授業を振り返ってみよう

- ・意欲的に授業に取り組むことができた アイウエ
- ・新たな学びを得ることができた アイウエ
- ・クラスメイトの意見を聞いて アイウエ

考えを深めたり、新たな気づきがあったりした。

ア:とてもあてはまる イ:まああてはまる

ウ:あてはまらない エ:全くあてはまらない

出会い、ふれあい、学びあう

「生き方」から学び、「生き方」を見つめ、「生き方」を創造する。
これが私たちの目指す「道徳」です。

先生方の授業をアシストする
メンバーページのアクセスが便利になりました。

メンバーページへのアクセス方法

日本教科書のメンバーページには、
下記のQRコードを読み込んでいただくか、



<https://www.nihon-kyokasho.co.jp/nikka-memberpage/>
を表示していただき、
パスワードを入力してアクセスしてください。

また、弊社ホームページ <https://www.nihon-kyokasho.co.jp> からメンバーページに直接アクセスできるようになりました。「お知らせ」下の「日本教科書メンバーページ」をクリックしていただくと、「メンバーページにアクセス」のボタンが表示されますので、こちらをクリックしてください。次の画面でパスワードを入力していただくとメンバーページに入れ、評価文例集、ワークシートをダウンロードできます。



日科 中学道徳通信 vol.6 令和4年4月15日発行

発行所 日本教科書株式会社
発行人 奈良 威
編集人 三星雅人

デザイン ランドリーグラフィックス
表紙イラスト 青木俊直

本資料は、一般社団法人日本教科書協会
「教科書発行者行動規約」に則り、作成されています。
本書の無断転載・複製を禁じます。



道徳専門の教科書会社
日本教科書

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-12
TEL 03-3518-6345
FAX 03-3219-0660
<http://www.nihon-kyokasho.co.jp>